

知っておきたい新型コロナの豆知識（1）

2020年3月

twitter「china tips by myokoi」 主持人 横井正紀
myokoi6212@gmail.com

中国ではこのような情報を一般の人が見て、知識としています。

特徴をよく理解しましょう。

(中国の2月~3月にネットで流れている信憑性のある話題で、TWに掲載した中から、ウイルスの特徴に関するものをクリップ)

●上海交通大学医学院児童医学センター臨床感染病学と生物統計学部のチームが、米小児科学会が発行する医学雑誌小児科のオンライン版に「中国における2019コロナウイルスの小児患者2143人の疫学的特徴」と題する研究論文を発表。感染または感染の疑いがあると診断された18歳以下の小児患者の2143人のデータを扱った。そのうち、1歳以下の乳児379人が含まれている。平均年齢は7歳。経過観察は無症状(4.4%)、軽症(50.9%)、中度(38.8%)。重症化または危篤化したのは5.9%の125人。重症化した125人のうち、60%以上が5歳以下。うちの40人は1歳未満の乳児。呼吸器や身体の発達がまだ不完全な乳幼児は感染しやすいと、医者は分析している。

●中国が新型コロナウイルスのワクチンの臨床試験を開始。既に1名注射を完了。経過観察中。中国は現在5つの面からワクチンの研究開発を展開。全ウイルスワクチン、核酸ワクチン、アデノウイルスベクターワクチン、組換えタンパク質ワクチン、インフルエンザウイルスベクターワクチンなどが含まれる。

●新型コロナは蚊で伝播するか？という議論が活発化。蚊は人の血液内のすべてのウイルスを伝播できるわけではなく、伝播できるウイルスは、蚊と病原体の長期的な相互作用、相互適応、共同進化によって決まる。現時点ではコロナウイルスが蚊に感染し、蚊によって伝播することを示す証拠はない。

●新型コロナ感染者1261人が中薬「清肺排毒湯」を服用し、うち1102人が治癒。29人の症状が消え、71人の症状が改善。重症患者40人も服用し、うち28人が退院。12人は病院で治療を受けており、10人の症状が好転し、重症から軽症になった、と表明。

●新型コロナウイルスに1度感染したからと言って、永遠の免疫力をつけられるという証拠は今の所ない。中国専門家医師の見解。

●中国は幹細胞などの新技術・新方法を利用した新型肺炎の治療を模索している。その臨床結果は安全かつ効果的で、肺線維症を防止し、患者の長期予後を改善する独自の優位性を持つと科技部が報告。重症患者の臨床研究・治療を展開し、すでに64人の患者を治療。

●ChinaDailyが、「FIGHTING COVID-19 THE CHINESE WAY」と題する英語版の特設ページを設置。中国が採用して効果が確認された感染拡大防止・予防対策、治療法などを共有

中国当局は、新型ウイルス感染症の治療に関し、日本でインフルエンザ薬「アビガン」として知られるファビピラビルの有効性を臨床研究で確認し、政府の診療方針に正式に採用する方針。

●新型肺炎で30代の比較的若い人が亡くなる理由は、低酸素症。高齢者が低酸素症になると、体に反応が現れる。これに対して、若者は酸素不足になっても、意識が依然としてはっきりしているため、低酸素症と判断されにくい。これが致命傷になるらしい。新型肺炎患者に対して、動脈血酸素飽和度(SaO₂)を測るだけでは不十分で、動脈血酸素分圧(PaO₂)を検査するのが重要と、現場の医師の私的。医師らは新型肺炎の患者の治療にあたって、肺線維症が最も重大な課題であると指摘している。

●中国の医師はこのほど、新型肺炎がヒトの肺だけではなく、免疫系まで攻撃することから、「SARSにエイズを足したようなものだ」との見解を表明。感染患者の遺体解剖に関わった医師は、「重症患者の肺機能の損傷が激しく、免疫系もほぼ壊滅状態であった」と明かしている。遺体解剖結果を踏まえて、退院患者は再び核酸検査で陽性反応が出る可能性がある。治癒直後は免疫力が回復していないことが原因。免疫力が落ちている人は再感染の可能性が高いと医師団は指摘している。

●新型コロナウイルスは、正常な湿度・気温の条件下で、新型コロナウイルスは銅の表面で少なくとも4時間以上、ボール紙の表面で24時間生存。ポリプロピレンやステンレスの表面の場合はさらに長く72時間に達する。湿度がより高いエアロゾルの環境の場合は3時間以上生存できる。SARSウイルスの場合、銅やボール紙の表面の生存時間は8時間、ステンレスは48時間、ポリプロピレンは72時間だった。エアロゾルの場合も、SARSウイルスは3時間以上生存できる。米国立衛生研究所などの共同チームがmedRxivでプレプリント論文を投稿。

●新型肺炎で入院治療を受けた武漢市の重症患者の分析で、ウイルスの検出が発症から平均20日間続いたとする結果を中国医学科学院などのチームがまとめ、3月10日付の英医学誌ランセットに発表。限られた症例の分析とした上で、患者の隔離や治療をする上で重要な結果とコメント。この結果から新型肺炎患者は、退院前に検査で陰性を確認する必要があると指摘。発症から退院までは平均22日、死亡までは平均18.5日だった。ウイルスは、退院できた人で発症から8~37日間、平均で20日間検出された。死亡した人はウイルスが不検出になることはなかったなどの報告もあり。新型肺炎による死亡した人の特徴を見ると、退院した人の平均年齢52歳に比べ、平均69歳と高齢。入院時に全身の炎症反応や血栓症の兆候がある人、高血圧、糖尿病といった持病がある人は危険性が高いとの結果も得られている。

●香港大学医学部袁国勇教授は、世界人口の7割に新型コロナウイルスに対する免疫ができて初めて、感染拡大が和らぐとの見方を表明。現時点で新型コロナウイルスに対する免疫を持つ人は0.1%だが、この比率は毎年5%ずつ増加。

●感染者が100人いれば潜在的に800人の感染者がいる可能性がある。潜在感染者は自身が自然治癒しても他人に感染させる状態にあり、故に感染ルートをたどるのが困難。香港でも、115件の感染例のうち、13%にあたる15人は症状がなかった。

●新型コロナウイルスのゲノム配列情報を世界で初めて公開した復旦大学附属上海公衆衛生臨床センターが閉鎖。同センター研究チームは2019年12月26日から武漢の病院に入院し、呼

吸器疾患の症状を呈した男性患者を調べ、1月5日、新型コロナウイルスのゲノム配列の解読に成功。結果を中国国家衛生健康委員会に報告。「SARSに類似する未知のウイルスで、呼吸器経路で伝播する可能性が高い」と感染拡大防止措置を講じるように提言。しかし、衛生当局に動かないために、1月11日にウイルス情報共有サイト <http://virological.org> に配列情報を公開。

- 新型コロナウイルスの変異が見つかり、感染力が強まっている模様。感染した場合、心臓、肺、脾臓、肝臓、腎臓、脳組織などに病理変化が生じ、臓器が損傷することがある。患者の肺組織に病巣部出血や壊死、出血性梗塞、肺の間質組織の線維化などが見られるという。首都医科大学附属北京地壇医院は、新型肺炎の感染が確認された56歳の患者の脳脊髄液を遺伝子配列検査で調べた結果、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)を見つけたと報じた。地壇医院はウイルス性脳炎と臨床診断した。患者の中樞神経系がウイルスに攻撃されていた。

- 武漢市の、新型肺炎患者が治癒して退院前2回の検査も陰性だったが、退院後の経過観察期間中に死亡。新型コロナウイルスによる肺炎に再び感染したと診断され、死因は呼吸不全。成都市、武漢市、広東省など各地では、患者が退院して2週間後の検査で再び陽性反応が出たことを重視してからか、治癒後の核酸検査を3回連続行うようにと提案し、退院基準をより厳しくすべきだとの見方をこの事件後に表明している。

- 中国当局は、新型肺炎患者向けにロシユの関節炎薬トシリズマブ(商品名アクテムラ)の投与を認可。新型肺炎で重篤な呼吸器症状を呈している患者に同薬を処方することが可能となる。同薬はタンパク質の一種「インターロイキン6」値の上昇による炎症反応などを抑える効果がある。

- 中国政府は、排せつ物からの感染もあり得ると注意喚起。またウイルスの遺伝子を増幅して有無を調べる検査に加え、血中からウイルス抗体が検出されれば感染確定の診断を下せるよう変更。中国政府は、飛沫、濃厚接触、密閉空間における空気中を漂う微粒子(エアロゾル)による感染のほか、尿や大便からウイルスが検出されており、接触やエアロゾル感染の恐れがあると注意喚起。

- 中国の研究者チームが中国の英字科学誌「国家科学評論」に発表。ウイルスのサンプル103例の遺伝子配列を調べ、うち101例を「L垂型」か「S垂型」に分類。L型は感染力が強く、武漢で流行初期に多く確認。1月初旬以降は減少。もう一方のS型は、コウモリから検出されたコロナウイルスに遺伝子的に近く、古い型。一つの型にだけ感染する症例が大半だったが、武漢への旅行歴のある米国の患者1人は、両方の型に感染した可能性があったとしている。

- 中国生物製薬の子会社の江蘇正大豊海製薬が開発した気管支ぜんそくの発作予防・長期治療薬「モンテルカスト細粒」(辛泰)が、中国当局から医薬品登録の承認を得た。後発医薬品の同等性評価を通過。

- 武漢大学中南病院研究チームが「新型コロナウイルス回復者のPCR検査陽性結果」(Positive RT-PCR Test Results in Patients Recovered From COVID-19)が医学誌ジャーナル・オブ・アメリカ・メディカル・アソシエーション(JAMA)に発表。4人の医療関係者の新型コロナウイルス患者の治

療のレビュー。4人には症状がなく、胸部CT画像は治癒時と変化していない。新型肺炎の患者とも接触していない。発症から治癒まで12~32日間の時間を要した。治癒後も陽性反応あり。少なくとも一部の治癒患者は新型コロナウイルスを保有していると指摘。

- WHOの専門家が提供したデータモデルによると、中国が実施した人の移動を制限する措置により、中国国内のウイルス感染拡大のスピードは2日~3日遅くなり、中国国外への感染拡大のスピードを2~3週間遅らせた。

- 主に中医薬療法を採用した治療を受けた88歳の新型コロナウイルス感染患者が治癒。高齢であることに加えて、持病があり、体が抗ウイルス薬に耐えることができなかったため、『中医薬+インターフェロン噴霧』の中医学療法を採用。浙江省では、濃厚接触者が予防用の中医薬を、感染の疑いがある人が中医薬を服用するほか、中医学の医師が隔離病棟に入って、治療やリハビリ中の患者への中医薬投与を実施する中医薬予防・治療システムが既に確立されている。

- 米国疾病管理センター(CDC)が過去数ヶ月間にインフルエンザで死亡した米国の患者1万人あまりのうち、新型コロナウイルス(COVID-19)感染による肺炎患者が含まれていた可能性があると考えており、すでにニューヨークやロサンゼルスなどの大都市で大幅な検査体制の見直しを開始。これまでに米国では少なくともインフルエンザの患者は2600万人に上り、入院した人は25万人、死亡した人は1万4千人に上る。この数は異常。日本はこの事実をなかなか報道しない。中国の多くのネットユーザーが、新型肺炎は米国から来た可能性があると考えている。

- 中国政府は、国内向けの新型肺炎の診療方針を一部改定して公表。特定の条件下で、空気中を漂う細かい粒子状の「エアロゾル」による感染もあり得ると初めて明記。エアロゾル感染は気管挿管などの医療行為の際に起こりやすいとされ、院内感染の防止などで一層の警戒が必要となる。

- 中国国家衛生健康委員会は「新型コロナウイルスによる肺炎の診断・治療プラン(試行第6版)」を発表。新型肺炎の診断について、試行第5版は発生源である武漢市が所在する湖北省と、中国本土のほかの地域を分けて異なる基準を適用していたが、第6版では統一した。疑似例は、過去14日間における武漢市・周辺地域やほかの流行地域の滞在歴や、患者との接触歴、市中感染の発生の有無に加え、臨床症状として発熱・呼吸系症状、胸部画像診断、血液検査の結果などを総合して判断する。確診例については「核酸検査が陽性」を条件にするとした。

- 成都市で、新型肺炎感染検査を4度実施し全て陰性だった女性が、5度目の検査で陽性と判明。当初核酸増幅法(PCR法)で2度陰性。その後発熱し胸部CT検査で左右の肺の下葉にウイルス性肺炎と見られる感染が確認され入院。入院中再び2度の核酸増幅法検査を受けたが、結果はどちらも陰性

- 中国生物技術有限公司は一部の回復患者の血漿採取、及び抗新型コロナウイルスウイルス血漿製品、抗ウイルスグロブリンの生成を完了。臨床治療に使用する抗ウイルス血漿を生成し、重症者の臨床治療に投入を開始する。

- 新型コロナウイルス肺炎の感染確認患者の糞便から2株の新型コロナウイルスの分離に成功。この意味は、糞便に含まれるウイルスが空気中に拡散する可能性がある。都市部は問題ないが農村部のトイレには上下水道が通っていない場合が多く、感染のリスクがさらに高いと専門家が指摘。